

「教育ある人間」を目指して

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

今回は、最近私が読んだ本の中でも最も感銘を受けた文章をまずご紹介し、本題にすすみたいと思う。まずは、1～2度じっくり引用部分をお読み下さい。

『実際に私が知っているある若い人の話だ。40歳代になっているが私から見れば若い人だ。子供の頃から知っている。彼は（アメリカの）東部では放射線医学の第一人者だ。ある大学の医学部で放射線学科の科長を努めている。

私は講演のため東部に行くことになったとき、電話をかけて会おうとした。ところが彼は、「ピーター、申しわけないが、その週は、ある講座に出席するためミネソタに行っている。」と言う。

そこで、「何を教えているのか」と聞いたところ、「教えに行くのではない。一週間、超音波の技術について新しいことを勉強しに行く。去年行きたかったのだが、手術のため行けなかった。そのため、かなり時代遅れになってしまった。」と言った。

つまり、今後、「教育のある人間」とは、勉強し続けなければならないことを自覚している人間だということになると思う。これは、新しい定義だ。そして、この新しい定義のために、われわれの世界や働く場が大きく変わっていく。』

*以上、ピーター・F・ドラッカー著「未来への決断」379～380ページ、ダイヤモンド社 1995年9月7日刊より引用。

2. 「教育ある人間」を目指して

1909年に生まれた著者のドラッカー教授は、80歳台に入りますます頭がさえわたり、遂に、「教育ある人間」とは「勉強し続けなければならないことを自覚している人間のことであり」と定義した。

医者、技術者、歯科医で最先端の技術を学び続けたい人は、数年でよく勉強している人達に追い抜かれ職業を失うまでになるであろうことは、動きの激しい現代を直視すればするほどかんたんに予測できる。

どのような職業にも上下はないと思うが、一度この職業で生計を立てると決めた以上は、まずは、職業上の知識や技術をとことん身につけ、一定レベルまで上りつめ、上りつめた後も、絶えず不足の知識や新しい技術を身につけるために、分野別の最高の教育を受ける努力をすることが、21世紀を生き抜く知恵であると確信する。

3. おわりに

塾生諸君は、学校卒業後 20 数年を経ても以上のような勉強をしなければならないことを正確に認識し、学生時代には、目標を定めて勉強する習慣と、自分で勉強する能力（自己学習能力）を身につけてもらいたい。

新年を迎えるにあたって、残された 95 年の何日かを使い、来年はどのような目標を立て、どのような方法で勉強するのかを、ゆっくりと考え抜くことを全塾生の皆様をお願いしたい。（保護者の皆様も、残された 60～70 年間でどのように過ごすかを考えた上で、目標をもった勉強をお子様ともどもスタートし、ドラッカー教授の言う意味での「教育ある人間」を目指して頂きたい。）

がんばりましょう。